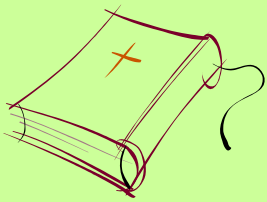


# MB伝道ニュース <特別号>



## 開拓伝道のビジョンを語る【IV】



### 「何かやってみよう」

北嶋和之師：海外宣教委員会委員長

開拓伝道について私が思うことは、「何かやってみよう」ということが結論です。もちろんある程度の計画は、必要だと思いますが細かなところまで考えて計画を立てると、「やっぱり難しいなあ」「もっと考えてから」とか、「やめとこか」になり、一步踏み出せなくなります。開拓伝道は難しいのです。ですから、数多くトライすることが大切です。伝道は人相手ですので、相手の興味、年齢、性別など違いがあるので、やりながら考えるというほうが効果的ですし行動を起こしやすいと思います。以前の開拓伝道のやり方を継続する困難な理由は、教団財政と人材的と効果的な方策という3つの側面からでしょう。5000人の給食のとき、「私たちには、五つのパンと二匹の魚のほか何もありません。」ルカ9:5とイエス様の質問に答え、イエス様に今あるものを献げたとき、主が祝福して5000人が満腹になり、なおもパンが余った。このみことばから、私たちに今あるものを献げるという発想で、開拓伝道を考えて見ましょう。

東京伝道というケースで考えてみます。

#### ① 人材

主から示されて伝道したいと思う人を捜す。特に東京には、大阪のMB教会から引越されたメンバーが大勢います。その中から開拓伝道に主体的に取り組む思いのある方々を探し、信徒による開拓伝道に取り組む。フルタイム牧師しか無理だと考える方も多と思います。聖書では、クリスチャンは全員献身者です。また、伝道に必要なご聖霊は、信徒ひとりひとりに与えられているので大丈夫です。世界宣教は、クリスチャンの中のごく一部の牧師だけの使命ではありません。すべてのクリスチャンが取り組まないと世界の隅々にまで福音は届かないでしょう。

#### ② 効果的な方策

これしかないという方策はないと思います。開拓伝道に取り組んでくださる人たちと数名の牧師が定期的に集まり、祈りながら具体的な方策を共に考えて、信徒の方々が実践し、また、牧師がフォローする。主体となってくださる信徒の方々の賜物、住んでいる地域、今の人間関係、伝道対象によって方策は、変わるからです。方策とはどのように主が導こうとされている方を探し、救い、救われた方がすぐに伝道できるためには、どうするのかというものです。

#### ③ 経済面

人件費と会堂建設には、高額な費用がかかるというのが、今までの開拓伝道計画でした。限られた予算内でどうするかということから考えます。信徒が開拓伝道の中心にということと、会堂をもたないということで、以前より費用がかからないでしょう。集まる場所は、家を中心にする。10名以上になれば、リーダーを育て2つのグループに分ける。これは、経済的な面と伝道に焦点を当てる目的です。会堂を持つと維持管理と組織を作っていく必要が生まれ、伝道牧会以外にエネルギーが必要になってくるからです。最終的には、会堂が必要かどうかはその群れが決める。

#### ④ 小さくはじめる

小さくはじめ、3年ぐらいのある一定期間を決めて、やめることも選択肢にいれて取り組む。開拓伝道は10トライして1つ成功。10トライして10成功はない。やったら、必ず、成功しなければならないという考え方を捨てる。言いたいことは、東京伝道だけではなくいろいろな開拓伝道を数多くトライしその中から、主が実を結ばせてくださるところを捜す。上手くいかなかったケースは、今後の教訓にする。

\*\*\*\*\*



教会は韓国の短期宣教チームとそこから生まれた長期奉仕者によって少しずつ、教会員自らが宣教する群れに変わっていきました。教会の青年たちは、韓国の長期奉仕者に励ましを受けつつ、近隣の大学に毎週出かけていき、個人伝道をして福音を伝える実践をするようになり、バイブルカフェという集まりを持つようになりました。個人伝道から定着した学生と一緒に昼食を取り、分かち合いと聖書の学びをする時です。時には、定着した学生たちが新しい学生を誘ってくることを励まし、弟子訓練の場となることも願いました。また、時間のある学生は、午後の時間帯に1時間以上をかけて学びをすることもありました。

青年の伝道への熱い思いは伝染し、教会全体が個人伝道への関心を持ち、自らもその知識と技術を学ぶようになりました。キャンパス・クルセード・フォー・クライスト (CCC) が提供しているリーダーシップ・トレーニング・クラス (LTC) に参加する方が起こされ、ついには教会が主催して CCC から講師を招いて LTC を行いました。2日間のトレーニングで、最終日には伝道実践として、町に出て行き声を掛けて福音を伝えることをします。教会の多くの方が参加してくださり、個人伝道にチャレンジしてくださいました。教会は確実に体質が変わりました。人々の魂の救いを願い、自ら一歩踏み出す力を付けることができたのです。そして、キリストの弟子となることを求める群れと導かれて行きました。

\*\*\*\*\*

**2015年度小牧ホープチャペルキャラバン伝道報告**

小牧ホープチャペルは、現在5年間の伝道支援計画の下、不破勝美師ご夫妻が派遣されています。伝道コンサート、英会話教室 (マーク・ケイン協力宣教師)、月2回の「みんなで歌おう」の集いなど熱心に伝道に励んでおられる伝道所です。8月23日の小牧キャラバン伝道には、伝道ニュースに載った募集に応じてくださった2名の兄弟と1名の姉妹計3名が参加してくださいました。当日は、朝7時大阪駅前に集合し自家用車で出発しました。



10時15分からの小牧ホープチャペルの伝道礼拝は、井上兄のギター伴奏による賛美「ハレルヤ私はクリスチャン」から始まりました。礼拝出席者は17名、不破師のメッセージはIIコリント5：17から「新しい生き方」というタイトルでした。私達が、キリストに立って歩いていくなら、日々新たにされ、主の民として、神との和解のみことばを伝える使節として、世に出ていくことができる。と語られました。その後、寝屋川教会の阿部秋人兄による福音腹話術「よきサマリア人」が上演され、子どもたちは大喜びでした。昼食と交わりの後、残暑の中、教会員と伝道チームの5名で近くの桃花台へ、9月27日に予定されている工藤



篤子姉のチャペルコンサートの案内チラシを戸毎配布しました。そして、帰途は、道路が少し渋滞し、夕方7時にキャラバン隊は、充実した一日の心地よい疲れの中で大阪駅に帰着しました。

小牧ホープチャペルは2年後の教会自立をめざし、今後その準備として、役員リーダーシップ訓練会の実施、教会ビジョンの作成、経済的側面を含めた教会運営確立のため、教団、各教会を上げての祈りと支援を必要としています。

よろしくお祈りします。(酒井昭男兄：伝道委員会委員)

**\*編集後記\***

★開拓伝道ビジョンはシリーズでお伝えしております。今回は海外宣教委員会委員長に語って頂きました。

次回もご期待ください。

★皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0038 大阪府池田市荘園2丁目1-12 TEL:072-762-5731

発行者：田畑雅紀(伝道委員長)

編集者：河野和雄(広報担当)